

### 3.制作（14時間）

●発想や構想をしたことを基に創造的に表す。

- ・①製材（柾目材の木取り、切断）
- ・②剥ぎ取り（鉋を使用した両端の傾斜加工）
- ・③柾目材の煮沸（一晚以上水に浸けて、十分に水分を含ませた状態で煮沸する）
- ・④曲げ加工（木型のごろ、コルクシート、固定具、クランプ等を使用し、2人組で協力して曲げる）
- ・⑤乾燥（1週間程度。その間に水に浸した桜の樹皮を小刀の峰部を使い樹皮を薄く削り製材する）
- ・⑥接着（剥ぎ取り面を併せてボンド接着）
- ・⑦本体の大きさに合わせ蓋材の曲げ加工、接着
- ・⑧本体、蓋の底板を加工し接着

・曲げわっぱ制作技法を踏まえ、発想や構想をしたことを基に材料や用具を生かしながら、手順（①-⑧）や技法を吟味して創造的に表す。また、制作途中に相互鑑賞の活動を行い、他者の作品を見たり制作の意図を説明したりすることにより、表したいものを明確にしなが、制作を進める。

- ・⑨修正（板と曲げ材の隙間をパテ埋め）
- ・⑩研磨（全体を調整）
- ・⑪樺縫い（桜の樹皮を成形、樺縫い）
- ・⑫塗装（クルミ油などの自然素材の油を塗布）

・仕上げ工程（⑨-⑫）を経て完成。

### 4.鑑賞（2時間）

●生徒作品を相互に鑑賞し、見方や感じ方を深める。

・身近な生活の視点に立って生徒作品を相互に鑑賞し、作者の心情や意図と曲げわっぱの制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて考え、感じたことや考えたことなどから根拠をもって批評し合う。

### 【活動の様子、ワークシート、アイデアスケッチ】

#### （知識・技能）

・作品から曲げわっぱの技法による制作方法を踏まえ、意図に応じて材料や用具を生かし、手順や技法などを吟味し、創造的に表しているかなどを見取るとともに、作品から形や色彩、素材などの働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかを併せて見取り、知と技を知・技として一体的に評価する。

### 【作品、ワークシート、アイデアスケッチ】

#### （思考・判断・表現）

・発想や構想を作品から再度見取り、発想のよりよい変化や、使用する人や場などに求められる機能と美しさとの調和などの深まりが見られる生徒については、評価を修正する。【作品】

#### （主体的に学習に取り組む態度）

・主体的に制作に取り組み、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、材料や用具を生かそうとするとともに、手順や技法を吟味し、創造的に表そうとしている態度を評価する。【活動の様子、作品】

#### （主体的に学習に取り組む態度）

・主体的にお互いの生徒作品を鑑賞し、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、身近な生活の視点に立って見方や感じ方を深めようとし、評価しているかを評価する。

### 【活動の様子、ワークシート】

#### （思考・判断・表現）

・身近な生活の視点に立って曲げわっぱのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と曲げわっぱの制作過程における工夫や素材の生かし方、見方や感じ方を深められているかを見取る。

